

ひろがれ人権ネットワーク

三木市人権啓発紙

8月 隣保館だより

2026 VOL.540

人権尊重のまちづくり推進協調月間
人権文化を進める県民運動推進強調月間



おいしさ三分割で幸せ三倍増し

2025年度「じんけんフォト&メッセージコンテスト」入選 松岡 早苗

♡次ページ 人権の小窓（291） 沖縄全戦没者追悼式 平和の詩
生きたいと願った証

豊見城市立豊崎中学校2年 亀谷 琉奈

♡裏ページ・8月カレンダー ・2026課題図書 貸出のお知らせ
・じんけんフィールドワークの学び

人権の小窓 (291)

平和は当たり前じゃない

「生きたい」という願いの上にある

令和8年6月23日は沖縄全戦没者追悼式、慰霊の日でした。住民を巻き込んだ地上戦が行われた沖縄の「平和の礎」には、軍民、敵味方関係なく戦没者24万2659人の名前（住民94,000人。軍人・軍属28,000人、米国12,520人を超える）が刻まれています。



終戦間際の1月、焼け野原の那覇に着任した神戸出身の島田叡知事は、住民の命を守るため食料調達と避難を主導。

43歳で消息を絶つ。暗闇の壕(ガマ)の中で、敵に気付かれると脅され我が子の口におしめを詰めて殺してしまった母親、敵に捕まれば男は殺され女は乱暴されると刷り込まれた沖縄の人々。首のない、はらわたの出た少年少女の遺体を見ているであろう島田さんが、そんな中、陣地移動途中県庁職員に「ついてくるな『生きろ』」と言ったそうです。



加西市の鵜野飛行場「旧姫路海軍航空隊基地」では、特攻隊「白鷺隊」を編成し沖縄近海へ出撃、21機63人が命を落としています。



三木市の飛行場では、同時期に訓練を終えた24機が特攻基地の知覧へ飛び立っています。

「一切の私心を捨て、悠久の大義に生きます」
「突っ込む時は、必ずお父さん、お母さんと
叫んで突っ込みます」
……21歳の若者が遺書に残した思い……



「生きたい」と言えなかった時代である。
「血と涙の中を生き抜いた人たちが命を繋いでくれたから今の私たちがいる」
「生きる」とは。

生きたいと願った証

豊見城市立豊崎中学校

2年 亀谷 琉奈

あの日の沖縄には
青い海も
優しい風もなかった
空は黒く
地面は揺れ
人々の叫び声が絶えなかった
爆撃の音が
心まで壊していく

まだ若かった曾祖母は
小さな体で必死に走った
血だらけの道を
倒れた人たちの横を
もう動かない人を見ながら
涙を流す暇もなく
ただ生きるために
そして
愛する夫の命を案じながら
「お願い 生きていて」
その想いだけを胸に
足がもつれても
呼吸が苦しくても
転びそうになっても
前へ前へと走った
しかし
その願いは
もう二度と届かなかった

その時のことを話す曾祖母の声は
今でもとても優しい
でも 私は知っている
その優しい声の奥に
今も消えない悲しみがあることを
細い足
しわしわの手
小さな背中
長い年月を生きてきたその姿を見るたび
私は戦争の重さを感じる
そして
曾祖母の右足には
今も傷が残っている

それは
戦時中 自分で引っ掻いた傷
灰色の空の下
爆撃の音が鳴り響く
恐怖と不安でいっぱいになり
右手に握った石で
自分の右足を何度も何度も引っ掻く
気づけば手も足も血だらけだった

私が真実を知った時
胸が締めつけられた
どれほど怖かっただろう
どれほど苦しかっただろう
生きたい
死にたくない
その想いだけで
曾祖母は必死に生き延びた



戦争は人を傷つける
体だけじゃない
心まで壊してしまう
家族と笑う時間
友達と過ごす日々
「また明日ね」と言える幸せ
そんな当たり前を
全て奪ってしまう
でもそれは
当たり前なんかじゃない
血と涙の中を生き抜いた人たちが
命を繋いでくれたから
今の私たちがいる
もし曾祖母が
あの日 走っていなかったら
もし
あの日 命を落としていたら
私はここにいなかった



曾祖母の右足の傷は
ただの傷じゃない
「生きたい」と強く願った証
「戦争は二度としてはいけない」
という叫び
私はその想いを
これから先も伝えていく
もう誰にも
血だらけの道を
走ってほしくないから

もう誰にも
愛する人の命が奪われることに
怯えてほしくないから
もう二度と
沖縄の空を戦争で
染めてはいけないから

平和は当たり前じゃない
たくさんの人の涙と苦しみと
「生きたい」という願いの上にある
だから私は忘れない
沖縄戦で苦しんだ人たちを
愛する人を守ろうとした想いを
泣きながら生き抜いた人たちを
そして
曾祖母の右足の傷を
「生きたい」と願った証の傷を
平和な未来へと繋いでいくために

(第36回「児童・生徒の平和メッセージ」詩部門
中学校の部 最優秀賞：沖縄全戦没者追悼式で
朗読：沖縄県平和祈念資料館提供)

平和ってなに？

母から伝わるこのぬくもりが「平和」。
悩みなくゆったりとくつろ
いでいる時、家族で食事し
ている時が「平和」。



「平和」の認識のしかた
が年齢や暮らしぶりによって違ったとして
も、唯一言えるのは「命がある」ことだと思
います。

人として互いに安心して「生命」を侵害
されことなく暮らせることでしょう。
戦場となった沖縄。民間人を巻き込んだ悲
惨な攻撃にともなう自決など、「あの戦争
で、人は人でなくなることをした」と、追
い詰められた人間の残酷な状況を作り出し
たのです。

1年に一度でもいい「平和とは何か」を
考えるために過去の現実思いを馳
せ、これからの生活に活かしてい
きたいものです。

8月

隣保館カレンダー



日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4 経営・職業相談 10:00～ エアロビクス 講座14:30～	5	6 広島平和記念日	7 経営・職業相談 10:00～ 人権相談13:00～ (緑が丘町公民館)	8 ひょうご・ヒューマン フェスティバル 2026inみき 市民じんけんの集い
9 ながさき平和の日 世界の先住民の国際 デー	10	11 山の日	12 国際青少年デ ー	13 人権相談13:00～ (吉川支所)	14	15 戦没者を追悼し平和 を祈念する日 書を楽しむきらきら 教室 13:00～
16	17	18 経営・職業相談 10:00～	19	20 人権相談13:00～ (三木市役所) 茶道教室11:30～	21 経営・職業相談 10:00～	22
23 奴隷貿易とその廃 止を記念する国際 デー	24 エアロビクス 講座14:30～	25 経営・職業相談 10:00～	26	27	28 経営・職業相談 10:00～	29
30	31					

課題図書2026

隣保館では貸出を行っています
どうぞご利用ください

小学校低学年の部

- ・「まこちゃんとコトバロボ」村上しい子 佼成出版社
- ・「なにかいいことあった？」ミーシャ・アーチャー BL出版
- ・「ララのまほうのことば」グレーシー・ジャン 工学図書
- ・「たねはいのちのおわりとはじまり」鈴木純 ブロンズ新社

小学校中学年の部

- ・「まだまだここから」宇佐美牧子 ポプラ社
- ・「それからぼくはひとり歩く」アリシア・モリーナ
ほるぶ出版
- ・「おいしいお米をつくりたい! ゆうちゃん、小学生で農
家に弟子入りしました」谷本雄治 汐文社
- ・「宇宙でウンチ みんなの知らない宇宙トイレのひみつ」
A.ボンドー=ストーン&C.ホワイト あすなろ書房

小学校高学年の部

- ・「ポジション!」高田由紀子 岩崎書店
- ・「リヒト!」イノウエミホコ 文研出版
- ・「ミシュカ」エドワード・ファン・デ・フェンデル、
アヌッシュ・エルマン 静山社
- ・「キミの一步 アフリカ ゾウを食べるにはひと口ずつ」
味田村太郎 あかね書房

中学校の部

- ・「君の火がゆらめいている」落合由佳 講談社
- ・「チーム・テスならだいじょうぶ」カービー・ラーソン &
クイン・ワイアット 鈴木出版
- ・「リュウグウの砂に挑む チームで小惑星のサンプルを
分析」伊藤元雄 くもん出版

じんけんフィールドワークの学び

6年生の教材「百日かせぎ」の舞台を訪ねて

6月27日(土)に丹波篠山市の丹波杜氏酒造記念館を訪れ、丹波杜氏に関する展示資料を見ながら、先人の活躍(酒造出稼ぎ)の歴史を学びました。

部落差別の壁を打ち破って、灘の酒蔵(さかぐら)において杜氏の仕事を獲得し、確固たるものにしていく話です。部落差別と闘いながら、丹波杜氏として信頼を勝ち取り、自らの村のために大きな功績を残した先人の若者と酒造会社の人の考えに思いを馳せ、記念館の方の説明と併せて、差別に立ち向かう大切さについて考えることができました。



人権啓発紙「隣保館だより」8月号

令和8年8月1日 発行

三木市市民生活部人権推進課 編集

〒673-0501 三木市志染町吉田823

TEL 0794-82-8388 FAX 0794-82-8658

E-mail: jinken@city.miki.lg.jp